

# 日本家族性腫瘍学会 2016 年度第 1 回理事会 議事録

日時：2016 年 6 月 2 日（木） 15：00～17：00

場所：ひめぎんホール 2 階 第 3 会議室

出席：富田尚裕、田村和朗、青木大輔、石川秀樹、石田秀行、大住省三、鈴木眞一、菅野康吉、  
武田祐子、田村智英子、松原長秀、三木義男、数間恵子（監事）、執印太郎（監事）

事務局、編集事務局：飛松

オブザーバー：奥村眞吾会計士、櫻井晃洋（第 23 回学術集会会長） 途中退室

## 審議事項

1. 奥村会計士に同席いただく都合により、一般社団法人化についての審議から行った。

①会則委員会 鈴木理事より定款案について説明があった。法人化後は、評議員は社員となり、評議員会は社員総会という名称となる。団体の最高意思決定機関は社員総会となり、今までの総会は報告を行う会となる。

いくつか質問・審議を行い、誤植訂正の上、評議員会・総会に諮ることとした。

②設立時社員として、理事 2 名および監事 1 名のみを登録し、次に理事全員の住民票・印鑑を集めていくこととなる。その後、全評議員の自宅住所の登録が必要となるため、会員情報に登録のない評議員については、連絡をとり、自宅住所情報を揃えることとする。自宅住所登録を辞退される場合は、評議員辞退となる。

③定款は 7 月に完成することとし、細則については今後検討を進め、適宜改正を行って行くこととする。

④奥村先生には今後、学会の顧問会計士を依頼することとした。

（奥村先生退室）

## 報告事項：

1. 事務局より会員数および年会費納入状況について報告があった。また 2016 年 2 月 1 日から 3 月 31 日までの新規入会者報告があった。

### 2. 各種委員会報告

①総務委員会：田村和朗理事より、会員登録データに未登録個所がある会員があるため、今後充実をしていきたい。法人化に伴う理事の押印処理について、1 枚の用紙に全員分を押す必要がある。1 ヶ月以内で全てまわるようにしたいとのこと。

②財務委員会：報告事項はなし。

③将来検討委員会：LFS 部会が本稼働している。

AMED の申請について古川先生に依頼し申請をだしている。結果は後日となる。

新企画として、中長期的なビジョンで公的資金の獲得について検討していきたい旨報告があった。具体的な内容については今後報告できるよう進めていく。

④会則委員会：鈴木理事より、法人化に向けての定款案が完成したとの報告があった。

⑤専門医・FCC 制度委員会：菅野理事より、今年度の FCC 申請について報告があった。また、トラブル回避のため、専門医・FCC 制度委員会の web サーバーを移行した旨報告があった。

会計については、学会本体と一体化となり、学会の監査を受けた。

⑥編集委員会：石田理事より電子化創刊号となる 16 巻 1 号ラインアップについて報告があった。6 月中には J-Stage に掲載予定である。過去のアーカイブについては、学術集会抄録を除き、150 ページ程度となっており、次年度以降予算をとり進めていく予定となっている。

⑦学術・教育委員会：三木理事より、学術集会での教育セミナーの開催を定着させていきたい旨説明があった。今年も調整中となっている。学会外部の方も演者に迎えていきたい。

⑧倫理審査委員会：武田理事より、規定原案について説明があった。今後整えていくこととする。

⑨ガイドライン委員会：大住理事よりガイドラインについて改訂の作業を行っている旨、資料提示および報告があった。文言等について修正予定個所の説明があり、表記・文言を含め、慎重な対応が必要となるため、修正案を理事会メーリングリストにて回覧し、指摘事項があれば、確認・訂正を進め、完璧なものを目指していくこととする。

- ⑩COI 委員会：大住理事より、指針案について説明があった。他学会のものも参考に作成を進めている。申告期間を何年にするか審議が行われ、1年に決定した。また、利益相反委員会を立ち上げる際のメンバーに外部委員が1名必要ではないかとの意見があり、倫理審査委員会で依頼をしている外部委員と同じ方に依頼をすることとした。次回以降の学術集会では演題募集時にCOI開示について案内をし、役員は提出を行う。編集委員会も同じ規定を使用することとし、論文投稿時に申告を必要とすることとする。
- ⑪国際委員会：松原理事より、トラベルグラントを募集しているが、まだ応募がないため、締め切りを延長して受付をする旨報告があった。学術集会時に再度告知する。また、学会ホームページに関連国際学会の情報の掲載をしている旨報告があった。国際研究への関与が遅れているため、対策を進めていくこととする。
- ⑫遺伝カウンセリング委員会：田村智英子理事より、引き続き資料収集を行っている旨報告があった。
- ⑬広報委員会：村上理事は欠席であったが、学会から会員への案内の充実や会員へのメール配信サービスの導入などを含め、ホームページのリニューアルについて検討が必要である旨確認を行った。
3. 第23回学術集会開催について、櫻井会長から説明があった。2017年8月4日・5日にホテル札幌芸文館にて開催予定となっている。各種会議は前日3日の予定。
4. その他
- ①田村和朗理事より、同日13時から開催された、第2回遺伝性腫瘍研究グループ連絡協議会について資料提示・説明があった。情報を密に連携を深めていきたい。
- ②田村智英子理事より、LFS部会について報告があった。研究費獲得に向けて活動をしていきたい。また、日本の現状を世界へ発信し、日本と海外とリンクしていくような形を構築していきたいとのことであった。
- ③菅野理事より、第19回前期家族性腫瘍セミナーについて開催案内があった。希少疾患をテーマにしている。翌々日に開催の準備委員会にて最終審議後、オンラインでの参加受付を開始する予定である。

#### 審議事項：

1. 青木理事より、2015年収支報告について、資料提示・説明および数間監事による監査報告があり、承認された。
- ①既に承認されているが、年度変更に伴い、2枚に分かれた収支報告となっている。
- ②専門医・FCC制度委員会会計については本体と費目が分かれているため、別途監査を行った。
2. 青木理事より、2016年度（2016年4月～2017年3月）収支予算案について、説明があり、承認された。法人化後、法人としての規定があるため、費目を含め、会計書類様式が変更になる旨、説明があり、これを承認した。
3. 2018年（第24回）学術集会会長について、松原長秀理事・田村智英子理事を理事会推薦とすることとした。
4. 理事会選挙結果に基づき、副理事長を2名体制とする提案があり、承認された。
- また、総務委員長と専門医・FCC制度委員長の入替についても提案があり、承認された。
- 2016年6月3日からの新体制では総務委員長 菅野康吉先生、専門医・FCC制度委員長 田村和朗先生とする。
- その他委員会体制は現状のままとし、委員変更・追加については、各委員長にて検討を進めていく。
5. 各種委員会審議事項
- ①総務委員会：田村和朗理事より、会員のバックグラウンドについての調査が必要であるとの意見があり、今後検討をしていくこととした。
- ②財務委員会：収支報告・予算案審議以外にはなし。
- ③将来検討委員会：石川理事より、競争的（公的）資金獲得に向けた学会のあり方について検討をしており、今後たたき台をつくって提案していきたい旨説明があった。今後の方向について意見交換を行い、学会員に不利益にならないように支援を行うための対策を考えていく必要がある。
- ④会則委員会：今後定款の見直しを進めていく。
- ⑤専門医・FCC制度委員会：審議事項はなし。
- ⑥編集委員会：石田理事より、COI申告書類について説明があり、論文投稿の際に二重投稿と利益相反の書類はあわせて提出を必要とする予定であり、COI委員会作成の書類と調整を行った形で最終決定とすることとした。
- ⑦学術・教育委員会：特になし。
- ⑧倫理審査委員会：特になし。

⑨ガイドライン委員会：ガイドラインについて早急に手直しを行い、2016年度版としてメーリングリスト配信、ホームページ掲載を進めていく。

⑩COI委員会：特になし。

⑪国際委員会：松原理事より、トラベルグラントの金額について審議が行われ、年間1件または2件で20万円とすることで決定した。

⑫遺伝カウンセリング委員会：特になし。

⑬広報委員会：村上理事欠席のため、なし。

#### 6. その他

①学術集会会計について、会計報告を必須とし、理事会・評議員会での報告を行うことを決定した。当面は独立会計とし、学会本体の会計との一体化については、継続審議とする。

②理事会を欠席する場合、各委員会委員などによる代理出席者が必要ではないかとの意見があり、今後検討していくこととした。

③RET, RB1 遺伝子検査の保険収載について学会でステートメントを出す件について意見交換を行い、その方向で進めることとした。

7. 新評議員推薦者について資料回覧・審議が行われ、承認された。評議員会・総会に諮ることとした。

次回理事会は10月の日本癌治療学会会期中とし、早急に日程調整を行うこととした。